

武藤将胤はよくいる不可能を可能にする者じゃない。

道を創る男だ。

武藤だからやれたで終わるのではなく、

彼の切り拓いた道は多くの後輩や仲間が集まり、

通れる大きな選択肢となる。だから、一緒にやっている。

武藤を観ると誰もが信じられなかった**未来を信じられる。**

寝たきりの、先はある。手足は作る。

これからも走り続けよう盟友。

吉藤オリイ

(株式会社オリイ研究所 代表取締役所長)

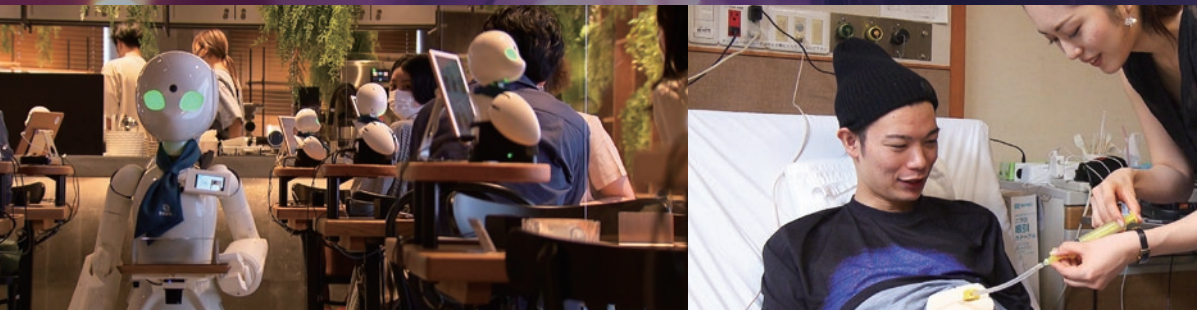
使命を自覚するとこんなにも強くなれるんだ…。

マサくとユウコちゃんとは、ライブ行ったり一緒に食事にも行く友人関係でしたが、
映画で見る私の知らない2人の姿に**胸が熱く**なりました。

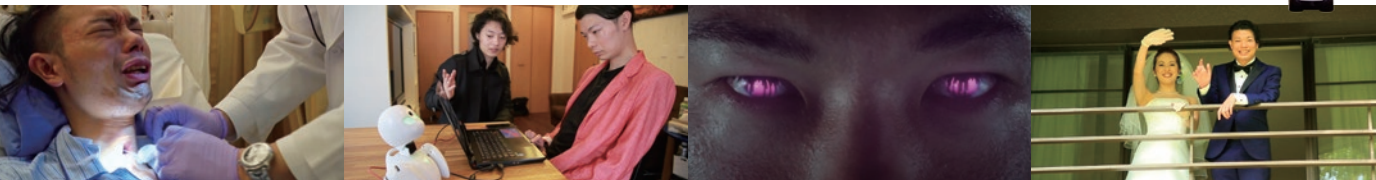
ナレーションの収録では感情を抑えられなくなるシーンもありましたが、
気持ちを込めて読ませていただきました。

ただのがむしゃらではなく、ひとつひとつコツコツと**奇跡を
自らの手で掴もうとする姿**から何かを感じ取ってもらえたらうれしいです。

石原さとみ (俳優)



2021年8月、東京パラリンピック開会式。車いすの少女が演じる「片翼の小さな飛行機」の物語で、ド派手な衣装をまとい、ギタリスト布袋寅泰らを乗せたデコトラの運転席に座りパフォーマンスを繰り広げた武藤将胤(むとうまさたね)。全ての人々が自分らしさを表現し、生き続けられる「BORDERLESSな生き方」を世界へ発信した。大学を盛り上げるイベントに明け暮れた学生時代。口癖は「クレージーに行こうぜ!」。社会を明るくするアイデアを形にしたい、その夢を叶えるため大手広告会社に就職。広告プランナーとなり順風満帆の人生が続くと思っていた。妻・木綿子(ゆうこ)と初めて会った日、手の震えが始まっていた。27歳の時、全身の筋肉が徐々に動かせなくなる進行性の難病ALS(筋萎縮性側索硬化症)と診断。「俺の人生は終わるのかー」絶望しかけたその時浮かんだのは、患者たちの未来を明るくするアイデアを形にする事。病気の啓発と、最新テクノロジーを使った活動を開始した。武藤将胤の限界なき挑戦の舞台裏に密着した、ヒューマンドキュメンタリー。



武藤将胤 武藤木綿子 ナレーション:石原さとみ

企画:河野太一 演出・プロデューサー:浦本 勲 プロデューサー:大黒和典 監督:毛利哲也 協力プロデューサー:白倉由紀子 連絡英明 宣伝プロデューサー:泉谷 裕

2023年/カラー/5.1ch/16:9/1時間39分/©テレビ朝日・フレックス

www.masatane.toeiad.co.jp

ALS(筋萎縮性側索硬化症)発症を知った上で結婚した二人
愛と科学で立ち向かう姿を描くヒューマンドキュメンタリー



映画HP